

## 第11章 評価書作成にあたっての準備書記載事項との相違の概要

環境影響評価書の作成にあたり、準備書の記載事項について見直し、修正した内容は、表 11-1(1)、(2)に示すとおりである。

表 11-1(1) 準備書の記載事項の修正内容

評価書の頁	準備書	評価書																								
1-2	1.4 対象事業の規模 埋立容量は 93.7 万 m <sup>3</sup> 表 1.4-1 対象事業の規模 埋立容量 93.7 万	埋立容量は <u>93.74 万 m<sup>3</sup></u> 埋立容量 <u>93.74 万</u>																								
1-5	表 1.6-2(1) 年度別埋立計画 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成 31～42 年度</th> <th>平成 43 年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物量 (t)</td> <td>62,000</td> <td>26,416</td> <td>770,416</td> </tr> <tr> <td>廃棄物量 (m<sup>3</sup>)</td> <td>62,620</td> <td>26,680</td> <td>778,120</td> </tr> </tbody> </table>	年度	平成 31～42 年度	平成 43 年度	合計	廃棄物量 (t)	62,000	26,416	770,416	廃棄物量 (m <sup>3</sup> )	62,620	26,680	778,120	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>平成 31～42 年度</th> <th>平成 43 年度</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>廃棄物量 (t)</td> <td>62,000</td> <td><u>53,844</u></td> <td><u>797,844</u></td> </tr> <tr> <td>廃棄物量 (m<sup>3</sup>)</td> <td><u>60,140</u></td> <td><u>52,229</u></td> <td><u>773,909</u></td> </tr> </tbody> </table>	年度	平成 31～42 年度	平成 43 年度	合計	廃棄物量 (t)	62,000	<u>53,844</u>	<u>797,844</u>	廃棄物量 (m <sup>3</sup> )	<u>60,140</u>	<u>52,229</u>	<u>773,909</u>
年度	平成 31～42 年度	平成 43 年度	合計																							
廃棄物量 (t)	62,000	26,416	770,416																							
廃棄物量 (m <sup>3</sup> )	62,620	26,680	778,120																							
年度	平成 31～42 年度	平成 43 年度	合計																							
廃棄物量 (t)	62,000	<u>53,844</u>	<u>797,844</u>																							
廃棄物量 (m <sup>3</sup> )	<u>60,140</u>	<u>52,229</u>	<u>773,909</u>																							
1-6	表 1.6-3 第 3 期処分場の天端幅 約 10.5m	第 3 期処分場の天端幅 <u>9.0m</u>																								
1-15	表 1.6-7 浸出水処理施設の計画流入水質及び既設処分場の水質実績の概要 Ca <sup>2+</sup> 計画流入水質 2,000	Ca <sup>2+</sup> 計画流入水質 <u>1,000</u>																								
2-64	図 2.2-1 人口の推移	図 2.2-1(2) 交流人口の推移を追加																								
5.1-72	b. 環境保全に関する目標を満足している。	<u>環境保全に関する目標を満足することから、環境保全に関する目標との整合性は図られるものと評価する。</u>																								
5.2-20	表 5.2-18 「現況交通量+工事用車両」の小型車の値 498	「現況交通量+工事用車両」の小型車の値 <u>518</u>																								
5.2-29	表 5.2-30、表 5.2-31 予測項目の(参考)環境騒音	(参考)を削除																								
5.2-31	表 5.2-33 騒音規制法に基づく特定工場等において発生する騒音の規制に関する基準(第 2 種区域) 50dB(A) 以下	<u>45dB(A) 以下</u>																								
5.2-36	表 5.2-37 昼間の交通量 小型車 460	小型車 <u>434</u>																								
5.2-36	表 5.2-37 昼間の交通量 合計 542	合計 <u>516</u>																								
5.2-36	表 5.2-38 現況交通量 542(82)	現況交通量 <u>516(82)</u>																								
5.2-36	表 5.2-38 供用時交通量 704(244)	供用時交通量 <u>678(244)</u>																								
5.2-39	a. 以上のことから、工事用車両の走行に伴う騒音の影響については、環境への影響の回避・低減に適合するものと評価する。	以上のことから、 <u>廃棄物運搬車両の走行に伴う騒音の影響については、環境への影響の回避・低減に適合するものと評価する。</u>																								
5.3-15	表 5.3-14 予測地点 県道出雲崎石地線 稲川集落付近	県道出雲崎石地線 <u>出雲崎町稲川地内</u>																								
5.3-17	a. 以上のことから、建設機械の稼働による振動の影響については、環境への影響の回避・低減に適合するものと評価する。	以上のことから、 <u>工事用車両の走行による振動の影響については、環境への影響の回避・低減に適合するものと評価する。</u>																								
5.5-6、5.5-7	表 5.5-6～9 の全窒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素の測定値	全窒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素ともに、測定値を小数点以下一桁に統一																								
5.5-6	表 5.5-7(1) 全窒素の環境基準(C 類型) 等	環境基準(C 類型) 等の値を削除																								
5.6-31	図 5.6-15 上流側モニタリング井戸の位置	上流側モニタリング井戸の位置を正しい位置に修正																								
5.7-13	表 5.7-5 No. 13, 14, 15 ペリカン目	No. 13, 14, 15 <u>コウノトリ目</u>																								
5.7-42、47、48、50	表 5.7-19、20、21(3)、22、23(2)	新潟県第 2 次レッドリスト 淡水魚類・大型水生甲殻類編(平成 27 年 10 月、新潟県)の公表に伴い、スジエビ・ヌカエビを重要な種として追加 また、予測結果・環境保全措置を追加																								
5.7-34	表 5.7-14 冬季の確認種数 0 種	<u>1 種</u>																								
5.7-36	表 5.7-15 第 3 期区域の確認種数 3 種	<u>4 種</u>																								
5.8-36、5.9-20、6-4	表 5.8-13、表 5.9-6(2)、表 6.2-1(2) 緑地の創設に際しての緑化種の選定にあたっては、	<u>自然環境の体系的保全を考慮した緑地の創設に際しての緑化種の選定にあたっては、</u>																								

表 11-1 (2) 準備書の記載事項の修正内容

6-2	表 6.1-1(2)動物	スジエビの保全策の実施を追加
6-4	表 6.2-1(2)温室効果ガスの環境保全措置 準 好気性好気性埋立によるメタン発生低減	準好気性埋立によるメタン発生低減
7-1	表 7.2-1、図 7.2-1 事後調査計画	大気調査地点を追加
7-2	表 7.2-3 ほう素	調査頻度を年 6 回に修正
8-8	表 8.1-1(7) 総合評価	スジエビ、ヌカエビを重要な種として追加 また、予測結果・環境保全措置を追加
8-8	表 8.1-1(7) 調査結果 (2)重要な動植物 底 生動物 2 目・4 科・5 種	3 目・6 科・7 種